

# 次世代に つなげる森林づくり



NO. 39号  
令和3年12月8日

森林技術・支援センター

## ICT研修会開催（令和3年11月9～12日）

### ～森づくりの高度技術者を目指して～

11月9日から12日に、「林業成長産業化構想技術者育成研修（ICT研修）」の四国ブロック研修が開催されました。

この研修は、林業成長産業化に資する技術力向上を目的として、中央研修とブロック研修に分けて実施するもので、今回のブロック研修では、国有林野職員だけでなく、行政機関や民間林業事業者の方々も参加して合計12名での研修となりました。

今回の研修では、高知県中土佐町の新道山国有林と隣接する民有林を構想フィールド（併せて約1,000ha）として、10～20年先を視野に入れた森林の全体構想を踏まえて、林業専用道計画（10年間）と森林整備計画（5年間）を策定し、研修最終日に地元中土佐町の林務担当者にプレゼンテーションを行うという形で実施しました。

具体的な研修内容は以下のとおりです。

- 初日** 外部講師等の説明を受け、QGIS（地理情報システム）、FRD（林道・路網の設計ソフト）等のツールを使用して林業専用道の路線を検討及び「地域特性に応じた森づくりの構想」の講義。
- 2日目** 喜代須山国有林（中土佐町）で林況や周辺の状態を考慮した、将来を見据えた森林づくりについて検討し、結果を発表。  
また、尻高山国有林（中土佐町）では「UAVを活用したシカ防護柵の点検」を実施。ドローンの飛行計画システムの説明と予め設定した飛行経路で、約1,300mのシカ防護柵の内側を自動飛行し、その映像を見ながらUAVの活用方法についての説明を実施。
- 3日目** 最終日のプレゼンテーションに向けて、フィールドの森林整備計画や木材生産計画及び林業専用道計画をFRDやQGIS等を使用して、各班に別れて全体構想を作成。
- 最終日** 各班から作成した構想をプレゼンテーションし、活発なディスカッションが行われた。

今回の研修では、最新の林業技術を学ぶことが目的でありましたが、それ以上に立場の違う若き技術者たちが同じ目標に向かって話し合う機会となったことが大きな成果と考えおり、今後の林業の成長産業化には、こういう繋がりが必要となっています。

#### 受講生からの感想

「林業のICTなど新しい技術を学ぶことができた」、「県や事業者、林野庁と立場や経験の違う者が森林整備計画の構想を一緒に話し合うことが出来て良かった」

研修から学んだことや、感じたことを地域林業の成長産業化に活かし、高度技術者になれますように



\*各種試験等についての問い合わせは  
四国森林管理局 森林技術・支援センター  
TEL088-821-2250 Fax088-821-4839  
E-mail shikoku\_gijyutu@maff.go.jp

